

創立100年 白石市図書館

図書館は、本年11月3日で開館してから100周年を迎えます。本年は白石市制施行60周年を迎える記念の年でもあります。しかし、「白石市」よりも歴史が深い図書館。明治時代の本から現代の本まで、幅広く蔵書のある本市の図書館に足を運び、本との出会いを楽しんでみませんか。

◎図書館 ☎26-3004

白石市図書館の開館 大正3年～昭和29年

図書館は、大正3（1914）年11月3日、「明治記念文庫」として白石第一尋常高等小学校（現在の白石第一小学校）内に設置されました（※1）。

明治9（1876）年と明治14（1881）年に、2度の東北巡幸をされた明治天皇の御聖徳を記念する永久事業として文庫が設置されたことから「明治記念文庫」と名付けられました。当時の「明治記念文庫」の蔵書数は不明ですが、構成は主に、3種類から成り立っていたことが分かりました。

1つは、明治期に使用された国定教科書類で、2つ目は、白石小学校創立者の一人でもある

飯田先生の漢学を中心とする蔵書。そして3つ目は、当時の学務委員であった加藤氏の亡命息子の蔵書から「明治記念文庫」は始まりました。

大正5（1916）年7月9日、「明治記念館」が完成し、明治記念文庫は小学校の片隅から独立した建物に移ります。

「明治記念館」については、昭和28（1953）年に発生した第一小学校の火災などで、現存する資料が極めて少ないです。記念館の建物は2階建てで、2階には児童博物館、1階には「明治記念文庫」が設置され、総坪数が40坪ほどでした。館長は、白石小学校の歴代の校長が務め、管理運営を行っていました（※2）。

また、「明治記念館」の建てられた場所は、平成26年現在、白石市情報センター「アテネ」が建っている部分（主に北側部分）に東側を向いて建立されたことが関係機関の協力で分かりました。

「明治記念館」ができて二十余年。時代は太平洋戦争に突入りし、白石も戦禍に巻き込まれていきます。

昭和19（1944）年には、「明治記念館」は玉浦飛行学校の生徒の駐屯所として使用され、図書館としての役割が封鎖されました。

した。

では、大事な蔵書はどうなったのでしょうか。「明治記念文庫」の蔵書は、荒縄で十字にゆわえられ、当時の白石公会堂日本間に疎開」と記録にあり、戦禍を免れたかに思われました。しかし、蔵書の一部を構成する明治時代の国定教科書類の大半は、米軍司令部の命令により処分されたことが資料から読みとることが出来ます（※3）。

終戦直後、昭和21（1946）年5月、白石町に教育文化課が設置され、「明治記念館」の管理は白石町に移管されました。しかし、昭和24（1949）年、「明治記念館」は、再び図書館としての機能が封鎖されます。新制中学校の臨時教室として使用され、記念館2階の児童博物館は小学校内に、「明治記念文庫」は公会堂へ移され、終戦から3年を経過してもなお、混沌とした時勢であることがうかがえます。

昭和28（1953）年5月、「明治記念館」は改修工事を行い、玄関は東側から西側へ。この改修工事は、明確な経緯は分かりません。すでに児童博物館を小学校内に移管していることや、隣接する公民館の玄関が改修を経て西側（現在の旧国道4号側）に設けられたため、これに合



続きました。

図書館サービスの分岐点 昭和49年～現在

昭和49（1974）年、図書館が現在の建物で開館し、ちょうど40年が経過しました。その中でも、最も大きな変化は、コンピュータを用いた「図書館システム」の導入です。

長らく図書館の貸し出し・返却・図書の日録などはすべて紙のカードで管理されてきました。しかし、カード式の目録管理では、検索に限界があり、さまざまな問い合わせに対し、十分な対応ができません。

そこで、平成10（1998）年1月10日、これまでの蔵書目録を「カード式」から「システム管理」へ転換を行いました。システム管理の導入は、利用したい図書の状況が瞬時に確認できるようなるなど、図書館サービスのスピード化がこの日から格段に進み、現在に至っています。

平成16（2004）年には、白石市制施行50周年を記念し、本市や宮城県、隣接する地域の図書を集約した郷土資料室を2階に設置。現在も、県内外の方に利用されています。

これからの図書館

開館以来、火災に見舞われることなく、未曾有の大災害として記憶に新しい東日本大震災にも耐えた白石市図書館。先人から伝えられている貴重な図書資料を守り、過去・現代・未来の時代を超えて多くの人たちが「読書の楽しさ」を共有できる場であり続けることを目指していきます。



▶大正5年に独立した建物となった図書館。当時、「明治記念館」と名付けられた

せて一般住民の施設利用促進を図るための改修工事ではなかったのかと推察しています。

白石市図書館3度の移転 昭和29年～49年

現存する資料をたどると、図書館は、昭和29（1954）年から昭和49（1974）年の20年間で、3回移転していました。

1回目の移転は、昭和29（1954）年。老朽化した公立刈田総合病院の新築工事に伴い、従来の洋風の建築物（明治15年築）を亘理町に移築し、これを図書館として使用するというものでした。

「明治記念館」から旧公立刈田総合病院への移転の様子は、当時の記録が伝えられておらず詳細は不明です。

移転直後の昭和30（1955）年「年表 白石市50年のあゆみ」によると「一戸一冊図書寄贈運動」がなされ、その結果、9月まで3,000冊が集まったことが記されています。また、このころは、職員が町内をリヤカ

1で回り、蔵書をなんとか増やそうと奮闘したそうです（※4）。

2度目の移転は昭和34（1959）年10月から翌昭和35（1960）年1月に行われ、白石市長町にあった白石警察署が、亘理町への移転に伴うものでした。この時は、残っていた資料から、慌ただしい様子だったことが分かります（※5）。

この移転は、昭和34（1959）年10月26日～昭和35（1960）年1月19日までを休止し、建物を解体せずに東側に約50メートル移動させる「引き屋」でした（※6）。

2度目の移転より3年前の昭和31（1956）年1月には、一般書と児童書の書架を分けて配置するために、児童室が増築されました（※7）。移転直前の蔵書冊数は約15,000冊。移転のための梱包や備品類の整理など、当時の図書館にとって大きな作業だったと考えられます。

また、隣接していた公民館は、白石警察署の移転により解体。図書館が東側に移転すると、図書館の建物に公民館の役割を加えた運営となりました。この運営状況は、3度目の移転となる現在の白石市図書館が完成した昭和49（1974）年3月まで

資料・参考文献

- ※1 「白石小物語95年のあゆみ」
白石市立第一小学校 編
明治43年～大正7年までは2年生以上の女兒のみを通学させた沢端分教場を第二小学校と名称を変更していることにより、白石第一尋常高等小学校となりました。
「第三集校旗・校歌・行在所・開校記念日」
95周年誌編集委員会 阿子島雄二 編
- ※2 「白石市勢要覧 1957 昭和31年度版」
白石市役所商工観光課 編
「白石町誌大正14年版」 庄司一郎 著
- ※3 「白石小物語95年のあゆみ」白石市立第一小学校 編
- ※4 「河北新報記事 昭和33年10月1日」
- ※5 「河北新報記事 昭和34年10月31日」
「白石市公民館報 昭和35年3月1日 第5号」
- ※6 「産経新聞記事 昭和41年」
「教育委員会関係事務報告書昭和34年自1月1日 至昭和34年12月31日」
- ※7 「白石市公民館報 昭和33年7月1日 第4号」